

すぎなみ 教育報

No. 228

平成30年3月16日
(年4回発行)



発行 杉並区教育委員会

CONTENTS

特集1

「教員の働き方改革」を
より一層推進します …………… 2

特集2

平成30年度 教育予算のあらまし …… 4

学校支援本部の扉⑥ …………… 5

杉並教育ICTフォーラムの開催報告 … 6

第9回中学生「東京駅伝」大会 …… 7

ようこそ学校図書館へ② …………… 8

質の高い教育のため 働き方改革を推進

教育委員会は、質の高い学校教育の持続発展を図るために
「教員の働き方改革」をより一層推進していきます。

質の高い学校教育の持続発展を図るため 「教員の働き方改革」を より一層推進します



学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中で、教員の長時間労働が大きな問題となっています。このことは、子どもたちの学びを支える教員の心身の健康に影響するばかりでなく、日々の教育活動への影響も懸念されます。

このため、教育委員会では、「教員の働き方改革」をより一層推進し、質の高い学校教育が持続発展できる勤務環境の整備・充実に取り組んでいきます。

これまでの主な取組

(1) 教員の業務改善・見直し

- ・全教員への「校務パソコン」の導入による授業準備等の効率化 (H20～)
- ・学校に対する「調査・報告業務の精選・縮減化」の実施 (毎年度)



(2) 学校を支える人的体制の確保

- ・「区費教員 (区の独自採用教員)」の配置・活用 (H19～)
- ・「学校支援本部」の全小中学校設置と運営支援 (H24全校設置)
- ・元校長等による「副校長校務支援員」の配置・活用 (H28～)



(3) 外部の力を活用した部活動支援の実施

- ・地域の人材による「外部指導員」の配置・活用 (H13～)
- ・専門事業者のコーチが指導を行う「部活動活性化事業」の実施 (H25～)

教員の長時間労働の実態

こうした中、昨年度に東京都教育委員会が実施した「公立学校教員勤務実態調査」結果では、下表のとおり、教員の長時間労働の実態が明らかになりました。

※本調査結果は、東京都HPからご覧になれます。 [都 教員勤務実態調査](#) [検索](#)

【1週当たりの在校時間 (平均)】

	小学校	中学校	特別支援学校
校長	55時間 59分	58時間 42分	54時間 08分
副校長	68時間 33分	65時間 54分	68時間 59分
教員	58時間 33分	64時間 35分	54時間 22分

在校時間の分布を見ると、「過労死ライン相当」と言われる週60時間以上在校している教員の割合は、次のとおりとなっています。

- ・小学校：37.4%
- ・中学校：68.2%
- ・特別支援学校：43.5%

平成30年度の取組

これまでの取組に加え、平成30年度は、以下の大きく3項目にわたる新たな取組を実施していきます。

1 夏季休業期間中における「学校閉庁日」の設定

平成29年度に一部の学校で試行した実績等を踏まえ、平成30年度は全区立学校において、8月13日 (月) から15日 (水) までの3日間、「学校閉庁日」 (教員が勤務しない日) を実施します。

※学校閉庁日の期間中、教員による日直勤務や部活動等は行いません。緊急時は済美教育センターが対応します。



2 「留守番電話」の設置・運用

全区立学校の電話に留守番機能を設定し、年間を通じて夜間等における運用 (平日は18時30分から翌朝7時30分まで、このほか上記の「学校閉庁日」等に運用) を開始します。

※運用開始は7月頃の予定です。



3 「(仮称) 杉並区立学校における働き方改革推進プラン」の策定

教員の意識改革や勤務時間管理のための取組を含め、「教員の働き方改革」を総合的・効果的に進めるため、平成30年中を目標に、保護者や学校関係者、地域の方等の意見を聴きながら「(仮称) 杉並区立学校における働き方改革推進プラン」を策定し、着実な推進を図ります。



杉並の教育の更なる充実・発展に向けた改革を 井出 隆安 教育長



教員が教科指導、生活指導、部活動指導等を一体的に行う「日本型学校教育」は、国際的に高く評価されているという指摘があります。学校では教員が一人ひとりの子どもの状況を総合的に把握して指導し、子どもの全人的成長を促す大きな役割を果たしています。一方で、学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、学校に求められる期待や役割は増加し続け、教員の負担増大や長時間労働が大きな問題となっています。

日々の学校教育の充実につながる重要な取組です。

こうした認識に立って、教育委員会は、今後、「教員の働き方改革」により一層、力を入れてまいります。

平成30年度は「学校閉庁日」を設けたり、「留守番電話」による対応等の取組を行いますが、これらの働き方改革を進め、教員の長時間労働を改善していくためには、保護者や学校関係者、地域の方々の理解と協力が不可欠です。学校教育の充実という目的を共有し、教員の働き方やこれからの学校のあり方について社会的な合意を得ながら進めなくてはなりません。また、国や東京都による教職員定数の充実や業務改善等の促進に係る財政的支援の拡充につなげていくことも重要となります。

「教育は人なり」と言われます。子どもたちの一番身近にいる教員が心身の健康を保持し、誇りとやりがいを持って教育に力を傾注できるように環境を整えていくことは、

教育委員会は、杉並の教育の更なる充実・発展に向けた改革に、一步一步着実に取り組んでまいりますので、皆様方のお力添えを心よりお願い申し上げます。

平成30年度 教育予算のあらまし

平成30年度の教育予算は、前年度比約1.2倍となる約186億円（一般会計予算の約10.3%）であり、その主な内容をお知らせします。

※教育予算を含む一般会計予算の詳細は、区 HP をご覧ください。

就学前教育の充実

《（仮称）就学前教育支援センターの整備》

成田西二丁目用地に移転改築する成田西子供園の併設施設として整備する同センターの建設工事を進めます（平成31年9月開設予定）。開設後は、同センターを拠点として、区内の就学前教育施設（幼稚園、保育園等）に対する教育的支援を統合的・一体的に展開して、幼児教育の質の向上を図っていきます。



学校教育への支援



《小学校外国語教育の体制整備》

前回の教育報（No.227号）でお知らせしたとおり、新学習指導要領（平成32年度に全面実施）に基づいて、平成30年度以降、段階的に増加する授業時数に応じて、学級担任を補助する外国人英語指導助手（ALT）及び日本人英語指導助手（JTE）の配置を拡大し、各学校でより充実した授業が実施されるよう支援します。

学校経営への支援

《教員の働き方改革の推進》（特集1の3ページを参照）

特別支援教育の充実

《特別支援教室の設置》

従来の通級指導学級に替えて、指導の充実と待機児童の解消を図るため、平成28年度から段階的に進めている全小学校への特別支援教室の設置は平成30年度で完了します。

こうした実績等を踏まえ、中学校については平成31年度に全校設置する計画としており、平成30年度はそのための検討・準備を着実に進めます。

【平成30年度 特別支援教室設置校】

エリア	設置校
大宮小エリア	大宮小（拠点校）、和田小、方南小、済美小、新泉和泉小
八成小エリア	八成小（拠点校）、杉並第九小、桃井第五小、沓掛小
三谷小エリア	三谷小（拠点校）、桃井第一小、桃井第四小、四宮小
松ノ木小エリア	松ノ木小（拠点校）、浜田山小、堀之内小、永福小

学校教育環境の整備・充実

《高円寺地域小中一貫教育校の整備》

区内2校目となる施設一体型小中一貫教育校（杉並第四小、杉並第八小及び高円寺中を統合。平成32年4月開校予定）の新校舎建設工事とともに、教育方針や標準服等の検討を進めます。

《桃井第二小学校の改築》

老朽化に伴う新校舎建設工事（平成31年3月完成予定）を進めます。



①久我山二丁目用地
②富士見丘中学校

《富士見丘小学校・中学校の一体的整備》

久我山二丁目用地と同用地に隣接する富士見丘中学校の校地を活用した一体的整備に向け、平成30年度は土地測量等の基礎調査に加え、両校にかかわる保護者や学校関係者、地域の方々等で構成する改築検討懇談会を設置し、同懇談会の意見等を踏まえつつ、年内を目途に改築基本計画を策定します。

《特別教室への空調機設置》

小学校は平成30年度で完了します。中学校については、平成30年度で全家庭科室への設置を完了させ、一部の学校で未設置となっている技術科室及び美術室は、平成31年度以降、可能な限り早期に設置していきます。

図書館の改修・改築

《中央図書館の大規模改修》

改修基本計画（平成29年8月策定）に基づく改修設計を行います（平成31年度から改修工事を実施、平成32年9月にリニューアルオープン予定）。

《永福図書館の移転改築・複合化》

現在の永福体育館移転後の跡地に、地域コミュニティ施設等との複合施設として移転改築します。平成30年度は実施設計を行い、平成31年度から施設建設工事進めていきます（平成33年4月開設予定）。

連載1

学校支援本部の扉⑥

方南小学校学校支援本部

児童と地域の大人による「ほうなん井戸端会議」

方南小学校では、学校運営協議会と学校支援本部が協働して、毎年、6年生の児童が、学校運営協議会委員や保護者、地域の方々と共に話し合う「ほうなん井戸端会議」を開催しています。この取組について、本部長の大嶋さんにお話を伺いました。

井戸端会議は、児童が多くの人とかわる中で、地域への帰属意識を高める機会とすることをねらいとして、平成26年度から行っています。

第4回目となる平成29年度は、「ぼくらのまち、私たちの学校」をテーマに、6年生78名が62人の大人と共に話し合いをしました。当日は、まず、児童から「方南町のよいところ」や「学校をよくするために私たちができること」について調べたことや考えたことを発表した後、大人を交えて車座になり意見交換をしています。



こうした取組を通して、児童からは、「自分たちの意見を基に、大人の方々が一緒に考えてくれたことがうれしい」、「自分たちも同じまちの一員なんだと改めて感じた」などの意見が寄せられており、この会議のねらいに沿った一定の効果が得られているのではないかと受け止めているところです。

今後とも、毎年、新たな顔ぶれとなる大人の参加を得ながら、児童にとっても大人にとっても有意義な会議となるように取り組んでいきたいと思っております。



問合せ：学校支援課 学校支援係

1/27 (土) 午後
杉並公会堂
大ホールにて

『杉並教育 ICT フォーラム』 の開催報告

午前中には、全区立小中学校で
ICT 公開授業を行い、丸一日がかりの
充実した取組となりました。

当日は、ICT を活用した授業の実践報告 (第1部) と有識者2名と教育長による
座談会 (第2部) を通じて、870名の参加者と共に、これからの時代にふさわしい
杉並の教育を考える有意義な機会となりました。

第1部の模様

タブレットに入力した個人の
意見が電子黒板で瞬時に
共有することができます。



桃井第三小での電子黒板とタブ
レットパソコンを活用した協働学習

一人ひとりの生徒の特性に
応じたアプリケーション
ソフトを使用しています。



井草中学校特別支援学級でのタブ
レットパソコンを活用した学習

プログラミング的思考は
アクセル、情報モラルは
ブレーキ。両者を並行して
学ぶことが大切です。



天沼小学校でのプログラミング的思考
(論理的思考) と情報モラルの学習

第2部の模様

中川一史氏 (放送大学教授)、堀田龍也氏 (東北大学大学院教授) と井出隆安教育長が、「AI (人工知能) と共存する
時代を主体的に生き抜く力を育む学校教育を目指して」を
テーマに語り合いました。

中川氏は、「杉並区が進めてきた研究指定校による取組を
踏まえつつ、段階的に ICT 機器を整備する手法は全国のモ
デルとなるもの。ICT 機器が各教科のねらいに応じて活用さ
れている点も評価できる」と話されました。

堀田氏は、「杉並区は、全ての教科の学びの基盤となる情報活用
能力の育成に力を入れており、新学習指導要領を見据えた取組が着
実に図られている」と語りました。

そして、今後に向け、中川氏から「教師主導から児童生徒主導の
授業へ変えていくことが大切」、また、堀田氏からは「プログラミ
ング等をするのは人間であり、児童生徒が情報技術の仕組みを理解
する教育が必要」とのご意見がありました。



フォーラムを終えて

本フォーラムを通して、参加者の方々から「ICT を活用した授業は、子どもたちの学びを深めるために有効である」、「区は、
ICT 環境の整備に今後とも力を入れるべき」とするアンケート結果が得られました。

これらを踏まえ、教育委員会では平成 30 年度以降、全区立学校へのタブレットパソコンの配備により一層力を入れてい
く考えです。

※本フォーラムのほか、区立学校でのICTを活用した授業の様子などは、教育委員会HPで紹介しています。 [杉並区](#) [学校ICT](#) [検索](#)

問合せ：済美教育センター ☎03-3311-0021

2/4 (日)
味の素スタジアム・
都立武蔵野の森公園
特設周回コースにて

第9回中学生「東京駅伝」 大会で杉並区代表チームが 総合11位と健闘しました!

都内 23 区、26 市、1 町の合計 50 チームの中学生が競い合う「東京駅伝」大会 (東京都教育委
員会主催) に、区立・私立中学 2 年生 42 名 (男子は選手 17 名・補員 4 名、女子は選手 16 名・
補員 5 名) の杉並区代表チームが参加しました。結果は、女子の部が 12 位、男子の部が 13 位、
男女総合 11 位で、全員がたすきと共に、互いを信じ励まし合う気持ちをつないで走りました。



大会に向けて

代表チーム 42 名は、区内の区立・
私立中学校から推薦された 108 名によ
る選考会で上位の成績を収めた男女各
21 名です。

大会までの 6 回にわたる練習では、
一人ひとりが 1 秒でもタイムを縮める
よう意識を共有して取り組みました。

代表選手に配布される
ベンチコートは皆の誇りです。



練習を重ねるごとに会話も増え、
当日は信じ合って走ることができ
て本当に良かったです!! (阿佐ヶ
谷中学校 大久保伸一さん)

大会当日の様子

まずは女子の部 (30km) のスター
トです。16 名の選手は「1 つでも順
位を上げてチームに貢献する」との
強い気持ちで走り抜けました。

続く、男子の部 (42.195km) は、
17 名の選手が団結力を発揮して、
たすきをつなぎました。



学校を超えた代表チームとして一丸に
なったことは、貴重な経験となりまし
た。(宮前中学校 池田幸生さん)



何回も一緒に練習してきた
仲間だからこそ応援にも
力が入りました。(立教女学
院中学校 中山瑞生さん)



大会後、選手たちは、練習を支えてくれた先生方や応援してくれた人たちに感謝の気持ちを
伝えるとともに、お互いの健闘をたたえ合っていました。選手の皆さん、お疲れさまでした。



ようこそ学校図書館へ



その② 松庵小学校

松庵小学校では、国語科の授業などを通して、低学年のうちから「楽しんで本を読む習慣づくり」に取り組んでいます。

小学校では中学年以降、長い読み物に触れたり、様々な図書資料を活用して調べ学習をしたりする機会が多くなるため、低学年のうちから主体的に本に向き合う習慣を身に付けることが大切です。

こうした教育をより一層進めるため、松庵小では、1年生の授業に、図書を使った「図鑑づくり」や説明文を書く活動を多く行っています。

また、友だちと共に本に親しむ活動をする「読書のアニメーション」の手法を取り入れており、例えば、2年生の授業「お話を考えよう」では、2・3人のグループ単位で、2つのキーワード（例えば「王さま」と「まほう」）を基に、短いお話づくりをして、クラス全体で発表し合いました。

授業の終わりに学校司書から、2つのキーワードはみんなに読んでほしい推薦図書の題名から選んだ言葉だと伝え、多くの児童が本棚に行って、それらの本を手に入れます。

これらの取組の結果、低学年の図書貸出冊数が増え（28年度の同時期よりも約1,000冊増）、先生方が授業で学校図書館や図書を利用する（同58時間増）機会も多くなってきています。

学校司書の西谷さんは、「今後も様々な取組を行い、子どもたちの読書習慣づくりを進めるとともに、先生方の授業の充実を支援していきます」と意欲的に語っています。

もっといろんな本を読みたい!



新しい本をその都度お知らせ



問合せ：済美教育センター ☎03-3311-0021

教育委員会からのお知らせ

- ◎今後の時代の変化を見据えつつ、子どもの読書活動の更なる推進を図るため、「杉並区子ども読書活動推進計画（平成30～33年度）」を改定しました。計画の詳細は、教育委員会HPをご覧ください。
- ◎平成26年度から整備を進めてきた通学路防犯カメラは、平成29年度で、全小学校の通学路への設置を完了（1校当たり5台で累計205台）しました。
- ◎教育委員会の会議は、原則として、毎月第2、第4水曜日に開催され、どなたでも傍聴ができます。会議の日程などは、教育委員会ホームページに掲載しています。



広告



NPO法人
We are サービスフロンティア
教育環境づくりを通して、地域を支える

TEL & FAX. 03-3325-7254

http://www.sugi-chiiki.com/toshokan_sa-bisu/

杉並区成田東 1-22-1

03-5913-7776



<http://www.lamerpiano.com/>

ラメールピアノ教室

SUGINAMI